あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.221　2019.3.1

松本の春、見つけた！2019

（松本市立博物館）

松本では、月遅れの４月３日にひな祭りを祝う風習があります。段飾りの雛人形といっしょに、松本押絵雛という台紙に布製の顔や着物を貼って竹串を付けた人形が飾られました。

そんな松本のひな祭りを、松本市立博物館・はかり資料館・馬場家住宅で紹介します。

（馬場家住宅）

（馬場家住宅）

松本押絵雛「蝦蟇」
（松本市立博物館）

松本押絵雛
「御殿女中」
（松本市立博物館）

（はかり資料館）

［展示］

- 松本市立博物館
  「月遅れのひな祭り展」
- はかり資料館
  「町屋で楽しむひな祭り」
- 重要文化財馬場家住宅
  「古民家で楽しむひな祭り」

［会期］

3月1日㊎～4月7日㊐

もくじ

誌上博物館 ◇ 旧山辺学校校舎－もうひとつの明治期学校建築－……2-3
博物館TOPICS ◇ 旧山辺学校校舎リニューアルオープン……4
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

旧山辺学校校舎－もうひとつの明治期学校建築－

はじめに

松本市では、平成27年度から30年度までの4年をかけて松本市里山辺にある長野県宝「旧山辺学校校舎」の耐震工事を実施し、31年4月末のリニューアルオープンを予定しています。今回は、オープンを目前に控えた旧山辺学校校舎（以下、山辺学校）について紹介します。

山辺学校は、木造2階建、南北6間半東西14間、外壁は漆喰仕上げで八角塔が付く学校建築です。明治18年（1885）に地元の大工棟梁の佐々木喜重によって兎川学校の校舎として建てられました。その後、周辺の学校との合併により山辺学校と改称し、昭和3年（1928）まで使用されています。以降は、役場庁舎や公民館、保育園として利用され、地元では「八角堂」として親しまれてきました。昭和56年からの大規模な保存復元工事を経て、翌年に地域の歴史・文化を展示する教育施設「山辺学校歴史民俗資料館」として開館し、昭和60年に長野県宝に指定されています。

旧山辺学校校舎

山辺学校と開智学校

松本市の明治期学校建築といえば、多くの人が旧開智学校校舎（以下、開智学校）を思い浮かべるでしょう。開智学校は、明治9年（1876）に建てられた全国的にも有名な学校建築で、国の重要文化財に指定されています。学校教育の始まりを象徴する建物として歴史の教科書に掲載され、大工棟梁の立石清重が東京や横浜で見聞した洋風意匠と伝統的な技術を融合させた建物は、その独特な華やかさで多くの人を魅了しています。

旧開智学校校舎

一方、山辺学校は、開智学校の9年後に建てられた校舎で、入母屋屋根の車寄（玄関前に屋根を張り出した所）などに和風の印象が強く見られるものの、この2つの校舎はよく似ています。棟梁の佐々木は開智学校の建設にも携わっており、これをモデルにしたためだと言われています。また、開智学校が高価なガラス窓を使い「ギヤマン学校」と呼ばれたのに対し、山辺学校は障子窓だったため「障子学校」と呼ばれていました。

このように、開智学校は「オリジナル」「洋風」「ギヤマン」、山辺学校は「模倣」「和風」「障子」といったキーワードで対比されることが多く、山辺学校に対して積極的な評価が少なかったことは否めません。

そこで、山辺学校が建設された背景などを探ることで、開智学校と地域性や時代性の違いを明確にし、その上で文化財としての価値や魅力を改めて考えていきます。

資金的な背景

まずは、現存する資料をもとに、山辺学校と開智学校の建築単価を比較します。

○山辺学校（明治18年竣工）

- 総建築費：1,573.6円　…①
- 延床面積：619㎡　…②
- 建築単価：2.54円/㎡　…①÷②

○開智学校（明治9年竣工）

- 総建築費：11,128.2円　…①
- 延床面積：2,653㎡　…②

※現存部以外も含む

- 建築単価：4.19円/㎡　…①÷②

山辺学校の建築単価は2.54円で、開智学校に比べ6割程度しかありません。

なぜ、これほど資金の差があるのでしょうか。大きな要因は立地の違いです。松本藩の旧城下町に建てられた開智学校は、江戸時代からの経済的基礎があり学区内人口は12,000人以上もいました。一方、山辺学校は松本の中山間地の山辺地域に建てられ、人口は6,600人ほどでした。そのため、地域の住民が負担することとされていた校舎建築費用に大きな差が生まれたのです。

一方で、潤沢な資金をもって建設された開智学校

では、校舎完成後も建築費用の徴収が続き借金問題による閉校騒動にまで発展しています。近隣でのこうした状況を知り、山辺学校では意識的により安価な校舎を建設したのではないかとも考えられます。

外観にみるコストダウンの工夫

建築単価を抑えるためには、より安価な材料を使用する方法があります。山辺学校がガラス窓ではなく障子窓を採用したことがこれにあたります。さらに、手間のかかる装飾を減らし人件費と材料費を抑える方法があります。まずは建物中央の車寄です。開智学校は2階にバルコニーがあり、エンゼルの看板や竜の彫刻などで飾られています。一方、山辺学校は和風の入母屋屋根があるだけで彫刻はありません。次は外壁の下部にある石積み風の装飾です。開智学校では、漆喰を厚く塗って黒漆喰で仕上げ、石のように大きく立体的に表現しています。さらに建物角にも上に向かって石を積んだ装飾を施しています。それに対し、山辺学校は、土蔵などに使われるなまこ壁の技法で、薄く塗った黒漆喰（通常は平瓦を張る）の上に白漆喰を盛り上げて塗っています。さらに、建物側面と背面にはこの装飾はまったくありません。

旧山辺学校校舎の背面

以上は、コストカットによって生じた開智学校との相違点です。しかしながら、横長の建物や石積み風に仕上げた漆喰塗りの外壁、中央に玄関を配置し手すり付きの八角塔を屋根に乗せるなど、全体としては開智学校のイメージを引き継いでいます。

国や県が示した学校建築の方針

校舎は、国や県が示した方針に沿って建てられています。山辺学校が建てられる2年前の明治16年に、長野県は『小学校建築心得』を出しています。そこでは、「校舎の構造は華飾に流れず（中略）素朴堅牢にして …」とされています。つまり、山辺学校が建設される前の段階において、これまでの華美な装飾を否定し、簡素で機能的な校舎が求められるようになっていました。

さらに、山辺学校の完成から7年後の明治25年に、文部省が発行した『学校建築図説明及設計大綱』のなかで、「西洋風は職工の未熟等によりてその体裁を失し（中略）殊に比較上建築費を増加するのみならず修理費もまた多きを免れず。故に大体の構造法を日本風として西洋風の長所を採りその欠点を補いたるものなり」とされています。西洋風は機能面と費用面から批判され、和風を基調とすることが明記されています。

こうしてみると、山辺学校が装飾を控え和風の要素を強くしていることは、概ね国の方針と合致するものであり、決して費用面の制限だけによるものではなかったことが分かります。

しかし、国が下見板張りの外壁など簡素な校舎を推奨していたにも関わらず、敢えて外壁を漆喰で仕上げ屋根に八角塔を乗せています。これは、開智学校に似せたいと大工棟梁の佐々木喜重や山辺地区の住民が強く意識していたことを物語っています。それだけ、当時の松本において開智学校が象徴的な校舎であったともいえるでしょう。

山辺学校の再評価

従来、山辺学校は、開智学校と比べ装飾性の乏しさから積極的な評価がされていませんでした。しかし、ここまでみてきたように、開智学校でみられた過剰な建築資金による学校運営の困窮と、全国的な洋風校舎の費用面・機能面での問題という2つの大きな課題に向き合い、開智学校のイメージを継承しながら、和風の伝統的手法を用いた創意工夫によってコストと機能のバランスを見出そうとした校舎であると評価できます。まさに、明治期の学校建築の歴史のなかで「洋風から和風へ、華美から堅牢へ」という大きな転換点に位置し、その過程を今に伝える貴重な校舎であるといえます。

現在、平成31年4月末のリニューアルオープンに向け、山辺学校の文化財建造物としての価値と魅力を多くの人に知っていただけるよう準備を進めています。開智学校だけでなく山辺学校も理解することで、明治期の学校建築をより一層楽しむことができます。ぜひ、山辺学校をご覧ください。

（松本市立博物館　学芸員 / 千賀 康孝）

博物館 TOPICS

旧山辺学校校舎 Tel.0263-32-7600

旧山辺学校校舎リニューアルオープン

平成27年度から耐震工事のため休館していた山辺学校歴史民俗資料館が、平成31年4月末に「旧山辺学校校舎」としてリニューアルオープンします。今回の工事に合わせて、展示空間の見直しも行い「明治の校舎」「昔の教育」「里の暮らし・文化」など、建物と地域に根差したテーマにより様々な新しい発見を生む展示となります。

なお、リニューアルオープンを記念し、重要文化財旧開智学校校舎と旧制高等学校記念館との連携企画「学都松本ミュージアムめぐり2019」を開催します。教育に関わる3施設で企画展を開催するとともに、スタンプラリーや観覧料割引も実施しますので、ぜひご来館ください。

これらについては、次号で詳細をお伝えします。

明治18年竣工直後の旧山辺学校校舎

旧山辺学校校舎

[住　　所] 松本市大字里山辺 2932 番地 3
[電話番号] 0263-32-7600（松本市教育文化センター）
[料　　金] 大人 200 円　小人無料
[開館時間] 9 ～ 17 時（入館は 16 時 30 分まで）
[休 館 日] 月曜日（休日の場合は翌日）
12 ～ 2 月は土日休日以外、12/29 ～ 1/3

ガイドコーナー はんてんぼく

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

松本高等学校開校100年記念「松高人名録（その一）」

松本高等学校出身著名人を紹介する企画展です。松本高等学校開校 100 年を記念しての、信州大学との連携展になります。

会　期 3月2日（土）～5月6日（月・祝）
月曜休館、休日の場合はその翌日
会　場 旧制高等学校記念館　ギャラリー
料　金 無料（常設展は通常観覧料）

時計博物館から ☎0263-36-0969

古時計ネジ巻き見学会

普段は見ることができない古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

日　時 3月16日（土）・17日（日）
各日午前9時～10時
会　場 時計博物館常設展示室
料　金 通常観覧料（大人300円、小・中学生150円）

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展【工芸の五月参加・丸山太郎生誕110年記念企画】「刺し子と手仕事の日本-丸山太郎の民芸を旅する」

刺し子を中心に、日本の手仕事を丸山太郎の蒐集品でめぐります。

会　期 3月12日（火）～6月16日（日）
月曜休館、休日の場合はその翌日
※4月30日、5月27日は臨時開館
会　場 松本民芸館
料　金 通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

松本の子どもの短歌・2018　入賞作品展

「松本の子どもの短歌・2018」の作品展です。市内の小中学校から応募いただいた 6,331 首の中から、最優秀賞・優秀賞・空穂会賞に入賞した作品を紹介します。

会　期 3月16日（土）～4月14日（日）
月曜休館、休日の場合はその翌日
会　場 窪田空穂記念館
料　金 作品展無料（常設展示は通常観覧料。大人300円、中学生以下無料）

歴史の里から ☎0263-47-4515

博物館でお花見を!

歴史的建造物と八重桜が織り成す美しい景観をお楽しみください。

【桜茶の振る舞い】

会　期 4月27日（土）～5月6日（月・祝）
定　員 各日先着20名

【歴史の里　桜のナイトミュージアム】

会　期 4月27日（土）・28日（日）、
5月4日（土）・5日（日）
開館時間 午前9時～午後7時まで（入館は午後6時30分まで）
※通常は午後5時までのところを2時間延長します。

会　場 いずれも歴史の里
料　金 いずれも通常観覧料（大人400円、中学生以下無料）

※桜の開花状況により各催しの期間が変更になる場合があります。
詳細は歴史の里へお問い合わせください。

あとがき

見学に来た子どもたちを案内して歩くと、思いがけない視点からの質問が出て慌てることが間々あります。同時に、その自由な発想にこちらが勉強させてもらうことも多くあります。館内で見て触れたもの、何か一つでも印象に残り、博物館は面白い所だと感じてもらえれば嬉しいです。（M・Y）

あなたと博物館 No.221
発行年月日/平成31年3月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷 川越印刷株式会社